

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や各フロアーに理念を掲示し全職員が共有出来るようにしている。	経営を引き継いだ際に法人の理念をそのまま事業所の理念としている。理念を職員が共有できるようホールや玄関に見やすいように掲示している。また、主任会議では理念もふまえてケアのふり返りを行っている。	理念は事業所の方向性を示すものであり、ケアの提供の拠り所となるものである。現在の理念は法人の理念をそのまま採用したものであるため、全職員が理念について周知できるようにフロア会議等でふり返りや見直しをする機会を定期的に設けて取り組んでいくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方への挨拶や夏祭りのチラシや広報誌を配るなど地域の関わりを持てるようにしている。	前回の外部評価結果を受けて事業所の広報誌を年2回発行し、地域とのつながりに努めており、広報誌やチラシ等を近隣に配布したりして関係は良好に深まりつつある。民生委員からの情報提供などはあるが、町内会との交流の取り組みはまだ十分とはいえない。	その土地の地域性などもあるため、事業所の努力のみでは地域との友好な関係構築が難しいこともある。地域包括支援センターとの連携を深め協力を得ながら地域とのつながり作りに継続して取り組んでいくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生を受け入れるなど地域への貢献をしている。また、同地区のコミュニティに参加し情報交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を行い活動報告をするとともに参加されている方より防災訓練についてなどアドバイスや意見をもらいサービス向上に活かしている。	会議は2ヶ月毎に開催されており、利用者代表、家族代表、地域包括支援センター職員、民生委員、近隣の小規模多機能型居宅介護事業所管理者、法人理事などが参加している。運営状況や災害対策などを議題とし、意見交換を行っている。会議録のファイルは誰でも閲覧できるよう玄関に置いている。	地域の代表である町内会長等の参加が得られていない。事業所の運営や地域とのつながりの上でも町内会長の参加は重要であることから、今後も働きかけを継続し、参加につながっていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加してもらい事業所の取り組みについて報告している。また、利用者について必要な場合は相談している。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加しており、運営状況等を把握してもらっている。必要な時には市の担当課に電話で相談を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。階下に行くには階段しかなく車椅子の2階利用者の行動の制限が出来ている。	身体拘束をしないケアについてのマニュアルを整備しており、外部研修にも参加してその内容を職員間で伝達している。スピーチロック(言葉による行動制限)についても職員間でお互いに指摘したり、管理者がその都度注意している。建物の構造上1、2階とも行動が制限されやすい環境であるため、利用者の希望にすぐに対応できるように職員は意識を高く持つようになっている。	1階は玄関の鍵が内側から開かず、エレベーターやリフトがないため2階への昇降が車いすではできない状況である。災害時等も考慮し、できるだけ利用者が安全かつ自由に移動できる環境の整備について検討することが望まれる。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し知識を深めている。言葉使いなど気になる点がある場合には職員同士声を掛け合っている。	虐待防止についての資料を回覧し、全職員へ周知するようになっている。また、マニュアルを整備し、外部研修への参加も実施している。	虐待防止に向けて資料の回覧や外部研修への参加を行っているが、今後は、高齢者虐待防止関連法や虐待の傾向等について全職員が理解を深めることを望みたい。そのためにも、伝達研修等を定期的に実施していくことを期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はないが利用者について成年後見制度の相談を市の関係者にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金など説明し不安や疑問点を伺い理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議により家族、利用者にも出席してもらい意見や要望を聞いている。	利用者からは日常の関わりの中で意向を聞いている。外出や外食の希望など、その都度希望に沿えるよう対応している。家族からは面会時に話を聞いており、意見や苦情については受けた職員が意見カードを作成し、対応結果まで記入することによって、確実に意見の反映ができるようになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	疑問に思うことのある職員は主任に伝え、主任から施設長へ報告、相談をしている。	管理者は日常的にケアの現場に出ているので、業務の中で職員とよくコミュニケーションをとっている。フロア会議やケアカンファレンスを利用して職員から意見を出してもらっており、最近業務の記録様式についての提案があり検討を行った。また、主任が前期・後期と年2回個人面接を実施して職員の話聞き、意見を出してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により各自目標を決めて働く事で向上心を持てる職場環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のレベルに合った研修に参加している。また、興味のある研修があれば参加出来るように情報を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修や法人内の勉強会などで意見交換等を行い質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談などで要望等を聞き本人のニーズを基本に対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談、契約時に要望や不安な事を聞き確認出来るように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談の際に本人、家族の要望や情報を把握し必要としている支援を行う様になっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に出来る手伝いなどを一緒に行ったり、一緒に食事をするなど家庭にいるような環境づくりをし、関係性を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際に、本人の様子を伝えたり、家族からケアに対する意見や要望があればその都度検討を行っている。また、月に1回手紙にて近況を報告している。	担当職員が毎月家族に手紙で近況を知らせている。それ以外にも衣類や私物の管理について、事故があった際などにこまめに電話で連絡を入れたり、日常や行事などの際の写真をアルバムにして面会時に見てもらっている。家族に積極的に働きかけたことで、連絡がとれていなかった家族が、面会につながったケースもある。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの話や本人との会話で馴染みの人や場所を把握するようにしている。友人の方の面会もある。	友人が面会に来たり、他施設に入所している親族に面会に出かけたりと、少しでも馴染みの人との交流が継続できるよう支援している。アセスメントシートをセンター方式に変更したところであり、これから情報の把握と整理を進めて更なる支援につなげていく予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションなどで利用者同士関わりが持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から情報提供の開示等があれば、可能な限りの協力を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で利用者一人ひとりの考えや思いを把握し個々に沿って対応している。	利用者からは日頃の関わりの中で聞いたり、反応や表情からくみ取ったり、家族から聞き取ったりしている。知り得た情報は申し送り等で伝達するとともに、センター方式のアセスメントシートに落とし込み職員間で共有し、介護計画作成時に確認して計画に反映させている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式により個々の生活歴や生活環境の把握に努めている。	センター方式のアセスメントシートを活用し、入居時に本人、家族に聞きながら情報を把握している。入居後に得られた新たな情報については把握した職員がセンター方式のアセスメントシートに追記して全職員で情報共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の過ごし方などケース記録に記録し、また職員間で申し送りの際情報交換を行い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスで職員同士意見交換を行い、利用者担当者が計画作成担当者と共に現状に即した介護計画を立てている。	担当職員がアセスメントを行い、利用者、家族にも意向を確認したうえで計画作成担当者とともに介護計画を作成し、ケアカンファレンスにて決定したものを家族へ説明し郵送している。3ヶ月ごとにモニタリングを実施して見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や気づきは記録に残し申し送りの際に情報を共有している。毎月1回のケアカンファレンスでも意見を交換し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じてチーム全体で検討を行い対応出来るようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の福祉バスや同法人施設のリフトカーを利用し外出行事などを楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院のより医師が月2回往診に来るが家族の意向に沿って従来のかかりつけ医にも受診している。	入居時にかかりつけ医の継続、変更について本人や家族と相談し希望に沿うように対応している。受診については、家族が対応困難な場合が多く、主に事業所に対応している。協力医療機関の医師とは、往診してもらったり、緊急時等には24時間の連絡相談が可能な体制ができています。内服薬についても薬局から服薬指導をしてもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時、看護職の同行はないが日常の様子を伝え指示をもらいながら適切な対応が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関へ本人の情報提供を行っている。また、入院中の状況の情報をもらったり退院時の相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所の出来る事を説明している。また、状況に応じてその都度家族と話し合い方針を決定している。	重度化や終末期については状態に合わせて必要な時に本人、家族と相談を行っていくこととしている。利用者の重度化は進んできており、ADLの低下があっても医療的処置の必要性がなければ事業所で生活を継続している状況である。	現在ターミナルケアの対象となっている利用者はいないが、事業所としての体制は未整備である。協力医との連携や職員研修といった体制づくりをさらにすすめていくことを期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生に備えてのマニュアルを整備し職員への周知を図っている。	心肺蘇生法や、転倒、誤嚥、火傷など事故発生事例ごとに分類されたそれぞれのマニュアルが整備されており、各フロアーに常備されている。	マニュアルは整備されているが、実践的な訓練は行われていない。今後は定期的に訓練研修を行って急変や事故発生時に迅速に適切な対応ができるよう実践力を身につけていくことを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に一度火災、地震訓練を実施している。運営推進会議で地域の方より災害対策についての情報をもらっている。	消防署立ち会いのもとでの年2回の訓練のほか、毎月マニュアルに沿って夜間想定避難訓練を行っている。緊急連絡網を整備して全職員に配布したり、3日分の水と食料を備蓄している。事業所が海と川にはさまれた地域に立地しているため、津波の際のより安全な避難方法についても検討を重ねている。	避難訓練は実施されているが、地域との連携には至っていない。災害時は近隣の協力が不可欠であることから、今後地域との連携・協力体制を構築していくことを期待したい。また、2階からの避難方法が階段しかないため、安全に2階から避難ができるよう、設備面や体制面について検討が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。	個人情報の記録や保管は周りの目にふれない場で行うなど、個人情報の保護に努めている。排泄支援場面での言葉かけにもその人の尊厳を尊重した対応をするよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の側に寄り添いお話を聞き、希望を取り入れられるようにしている。また、意思疎通が困難な方には表情を読み取るなど希望をかなえられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に合わせその方のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしく好みを取り入れながら支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備など出来る事を職員と一緒にして頂いている。	献立は職員が利用者の希望を聞き、相談しながら作成している。利用者はできる範囲で自分の食事の配膳や下膳をしたり、食器の片付けや食器拭きなどを職員と一緒にやっている。また、畑で育てた野菜を食事に取り入れたり、外食やおはぎ作り、誕生日には好きなものを食べられるようにするなど、食事を楽しめる取り組みをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を記録に残し、状態に応じて声を掛けたり形態を変えるなど食事や水分の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、一人ひとりの口腔状態に応じた対応をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄チェック表にて排泄のパターンの把握に努め、定時に誘導を行っている。	各居室からトイレまではやや距離があるが、排泄チェック表を活用して利用者個々の排泄パターンを把握し、日中はできるだけトイレ誘導を行うようにしている。車いす使用の利用者も職員2人介助で定期的にトイレに座ってもらっている。オムツ使用であった利用者がトイレでの排泄によりリハビリパンツ使用へと状態が改善したケースもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜を多く取り入れたり、体操やレクリエーションを通し体を動かす機会をつくって取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴した日からの間隔を見て優先順位を決めているが本人に意思を確認しながら対応をしている。	週2、3回のペースで入浴できるよう声かけをしており、希望があれば毎日の入浴や時間を変えての入浴にも対応している。その日によって入浴を拒否する方には時間を置いて声をかけたり、運動をして汗をかいてもらったりと入浴したいと思えるように関わっている。ゆず湯やしょうぶ湯といった季節に応じた変わり湯も取り入れて楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり様子を見ながら疲れや眠りたい様子が見られるなど状況に応じて休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されたお薬カードにて確認している。また、薬剤師より説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫煙習慣のある方には喫煙スペースを確保し見守りの元支援している。また、本人の出来るお手伝いをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望が聞かれた場合は希望に応じて対応している。また、行事計画を立てて外食や施設見学を行っている。	日常的に天気の良い日は近所を散歩したり、玄関先でお茶のみをしている。買い物などに車で出かけたり、バス旅行の計画を立てて出かけている。外出の際は、利用者の希望に合わせて個別に対応したり、数人で出かけていたりしており、個々の意向を尊重して対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、所持されているが使われることはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人に届いた手紙は本人へ渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快なおいには消臭剤を使うなど気を配り、室温も温度計を設置し配慮している。ホールには行事の写真や季節に合った飾り付けをしている。	日当たりの良いロビーに談話コーナーを設けたり、リビングの広い畳敷のスペースにコタツを置き、利用者が思い思いに好きな場所で過ごせるよう、割烹であった建物を工夫して活用している。利用者が楽しめるように季節に応じた飾りつけも工夫し、また、室内の温度調整やトイレの臭気対策などにも配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの窓際には長椅子を置き、談話コーナーも設けるなど一人ひとりが過ごせる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族に相談しながら今まで使っていたダンスや棚を持ってきていただいている。	備え付けのベッド以外はすべて利用者の持ち込み品であり、利用者それぞれがダンスを持ち込んだり、写真や塗り絵、習字などの作品を飾ってその人が使いやすいよう工夫をしている。居室は広く窓も大きいので、室温の変化や照明等にも配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や一人ひとりが分かりやすく表示したりと自力で生活を送れるように支援している。		